

「キリストと共に復活したものに」

～罪の自分に死ぬキリストの従順2～

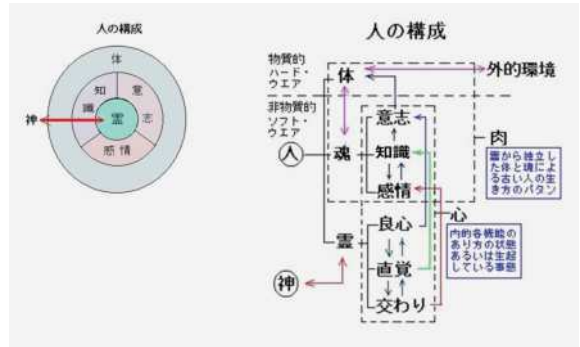
ローマ6：6～23

アメリカの大学である研究者が統計結果をだしました。保険会社が研究したのですが、その日、安心して過ごすためには朝、いざこぎを起さないことと言っています。そして、いざこぎを起さないためには自分が悪かったということを認めることが大切だと、統計学でも現れました。聖書でも一貫して、私たち罪人であることを伝えてくれます。みなさんは自分が罪人であることを自覚できていますか。あなたの中に正義のジャージマンがいますか。夫は妻に妻は夫に、子供は親に指を向けていませんか。もしあなたが、本当に正しく生きているなら、家族もあなたの周りの人もみんなが幸せになっているのでは、ないでしょうか。私たちはバプテスマを受けました。水につけられ、キリストの死にあやかって、古い自分に死に、そして、水から出たときにはキリストの復活にあやかって生き返りましたが、死んだ自分も生き返るのです。死んだふりをしていたのです。何十年クリスチャンをやっているのに死んだふりをしているばかりではありません。何か問題が起きれば、古い自分がでてきてあなたの人生を脅かすのです。いま、人生を振り返って良かった。といえるならばいままでの生き方をそのままやればいいでしょう。しかし、良かったと言えないならば、9割の悪い部分があっても1割の悪い自分が妨害をしているならば、悪い自分に死ななければならぬのです。～ローマ書7：19 私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえってしたくない悪をおこなっています。～と書かれている通りです。そして、誰かのせいに行っています。しかし、だれかのせいではなくあなた自身が決断して、悪を行っているのです。ではなぜそのようなことになってしまうのでしょうか。死んだはずの自分が死んだふりをしているのかもしれない。ではどうやったら、次のステップにいけるのか学んでまいりましょう。

ん。あなたと戦うことは大変です。悪魔と戦うことはやり易い。イエスの名によって出ていけと祈ればよいのですが、追い出してもあなたの中に一番の問題があるのだから、無駄なのです。あなたは教会に来る前と今では変わったのです。その変えられた姿、あなたの生き様をみせるとき、まわりの人、家族が正しく生きなければいけないと思うのです。お互いを尊敬しあうべきにすぎないのです。しかし、高ぶって、人を人とも思わず、神ののこを尊敬せず、自分の方が正しいと思うそしてわきまえない。自分より目上の人に対して文句をいう。ローマ1章29～32

①復活は死によってなされる

死ななければ復活しません。生き返らなければあなたは古いままです。古いままのあなたが行動すると壊れます。絶対戦って死んでください。あなたの中にいる自己と戦ってください。相手ではありません。自分と戦ってください。あなたの人生をダメにするのは他人でも悪魔でもありません。あなた自身なのです。ローマ書6：3～5 新しいあなたが生きるなら過去とは全く違った未来が構築されます。



神様はアダムとイブをつくった時に霊に命を吹きかけられました。私たちはいかされるようになって永遠の命を持つようになりました。私たちは永遠に生きたいと願います。なぜなら、永遠に生きる存在だったからです。霊の存在は私たちと神様がつながるところです。霊の部分が食べてはいけないリンゴを食べてしまったので良心、直観、交わりがなくなってしまう。今、良心がどんどんなくなっています。生まれたときからもって、知恵ともいわれ、神様との交わりの中で育てられていくものです。その霊が死んだのです。イエス様来てくださいと求めましょう。右のほほをぶたれたら左の頬を差し出す良心を持つことができます。しかし、そこで戦うのが感情です。そして間違っただけで決断してしまうのです。

②罪と命がけで戦います

現れをいっているのではありません。あなたの心の中の感情にわきあがる起こる殺意と戦うのです。あなたの目が罪を犯すならその目をえぐりだしてしまいなさい。身体全体がゲヘナにいくよりいいのです。子供たちに罪と命がけで戦う姿をみせるのです。ゆるされるからといって、罪と戦っていないのです。やくざでさえ間違ったら指を切り落とすぐらいの落とまえをつけているのです。私たちもそれくらい罪と戦いましょう。

③義の器として捧げるしもべとして

私たちは神様に義の器としてつかえるのです。神様を愛するから罪と戦うのです。しもべは主人を愛してつかえますが、奴隷は無理やりやらされている感じ。日本は愛が当たる神に呪われるという間違っただけ教育を受けています。だから間違っただけをしないのはいやいやしないのです。呪われるからです。しかし私たちが神様に義の器としてささげるのです。それは主人を愛するから罪と戦うのです。だから神様を探してほしいのです。この方は今まで裏切ったことはありません。間違っただけは戻れるように導いてくださいました。この方があなたのためにどうやって犠牲になったかもう一度思い返してください。十字架がどんなものだったか知らなければなりません。彼の犠牲を知れば神のすばらしさがわかります。だからそれさえわかればしもべとして自分に死ぬことができるのです。自分に死ぬ最大の方法は神様を知ることです。知れば絶対に好きになります。愛するあなたのために命をすてた方がいるのです。彼が死んだのだから私も死ななければならぬのです。そうすれば彼が復活して共にいるように、あなたも復活して隣人と共に生き、今日からあなたの生き方がかわります。あなたの一言で誰かが生かされます。

ヨハネ12章24節 賀川豊彦

牧師だった彼は当時劣悪な環境で働いている人々の救済に尽力をつくしました。彼は農協の創設者です。この農協のテーマはヨハネ12章24節です。もし私たちが死ななければ実を結ばない。もし死ぬならばそれによって豊かに実を結ぶ。自らの命を得ようとするものはそれを失い、それを、失うものはそれを得るのである。これは聖書の大原則です。教会には十字架がありますが、この十字架を掲げておけば上手いくというのではなく、十字架を見るたびに自分は死んでいるかどうかを見るためにあるのです。あなたの中にあなたが生きるといふことはどういふことでしょうか。自ら得ようとする時戦争が始まります。教会は与えるのではなく得ようとする人たちがあつまっているのです。得る事が出来なかつたら、あの人がおかしい、あんたがおかしい。となっていく。私たちは自分の罪が理解できないことが問題です。親から言われるように頑張ってきて、理不尽に叱られて、私たちの人生をコントロールされてきました。自分が間違っていると思いたくないのです。ですから罪が認められない人がたくさんいます。自分が今どんな状況に置かれていて自分にはどんな愚かさがあるかも一度理解し、欲を得ようとする心に勝たないといけません

イエスとニコデモ

自分に死ぬにはどうすればいいのかそれは復活するものになっていくということです。死ななければ復活がありません。死んでないので復活しません。ニコデモはイエス様にどうすれば神の国へ行くことができるか聞いた。イエス様は人は新しく生まれなければ神の国をみることではできない。といいました。するとニコデモはも一度母の胎にはいつて生まれなければならないのですか。といい、ニコデモは自分が死ななければいけないということがわからなかったのです。復活したい、新しく生まれ変わりたいといいますが、死ななければ復活しないのです。クリスチャンが何十年たっても変わらないのは自分に死なないからです。なぜ死なないかという、イエス様変わります。アメン！ハレルヤ！で終わったんです。しかし、それだけではなく、そのあと自らの十字架を背負って私についてきなさい。と言われていきます。自分に死に続けること。だれでも神の国に入りたいものは新しく生まれ変わらなければならぬ。誰でもキリストのうちにいるならその人は新しく作り変えられたもの。古いものは過ぎ去って見よ新しくなった。新しくなったのになぜ古くなるのか。新しくなった瞬間から古くなるのです。だから私たちは毎日私たちの心に忍び寄ってくる新しくなれないものを殺さなければなりません。罪と戦うということです。

御使いと格闘したヤコブ

ベテルで、御使いと夜中戦いました。ヤコブがエサウから長子の権利を奪ったときに母からうけたこの愚かさ、御使いと戦い続けヤコブは勝ってしまいました。神様はヤコブに罪と戦うこととはどういうことなのか教え、勝利の経験させたのです。神様はそういう方です。あなたの人生であなたが罪と戦うと絶対に勝てるようにしてくれ。私たちが戦わないといけないうのは、自分自身です。しかし私たちが戦っていません。絶対にいけないうことがわかっているはず。しかし、戦わず、不戦敗です。戦っていないので戦い方も知りません。私たちがキリストと共に復活するために死ぬために戦わなければいけません

(要約者:澤口 明子)

(2019年6月16日)